

**越山若水**

2021.4.2

東京に出た息子へ母から届いた

仕送りの段ボール箱。その映像がアップになり一瞬、送り状に「鯖江市」の文字が読める。それで、

この万年筆会社のテレビCMを覚

えていた。家族がたまたま見かけて、今も流れていると知った▼おむつ、名札、問診票、合格祈願の絵馬―息子が誕生してから数え切れないくらい名前を書いてきた、このストーリー。ただ、この名前書き、子どもの新入園・新入学準備を進める人にとっては今、重くのしかかるのでは▼文具大手「キングジム」社の調査で入園・入学の大変な準備に9割の人が名前書き・名前付けを挙げた。対象の持ち物は26%が51個以上でマスクケース、消毒液などコロナ禍で加わった物も。色鉛筆も一本一本必要となる▼学校などの持ち物リストは直前に分かることも多く、短期間で片付けないといけない大仕事である。白状すればこの調査を知るまでよく分かっていなかった。昔、家族がふうふう言いながら作業する様子は目にしていたが、参加しなかった。いまさらだがばつが悪い▼「名前は、いちばん短いラブレターだと思う」。先のCMに登場する言葉だ。とすれば、筆者は思いを伝えるたぐさんの機会を逃していたか。家族がなるべく手分けの上で子どもに「恋文」を届けるのはきつと悪くない。ただ、筆者の場合、字が汚いと参加を拒否されていたかもしれないが。